

使いこなせていない機能をフル活用して、素敵な写真を撮ろう! ★ご紹介する機能や名称および操作手順は機種によって異なります。

まずはカメラ機能の基本を学ぼう!

1 ピント&グリッド



【ピント】 被写体に確実にピ ントを合わせるには画面をタッ プし、四角の枠線を被写体に 合わせます。ただし、固定した 位置からスマホ本体を前後に 動かしてしまうとピントがズレ てしまうので注意しましょう。 【グリッド】画面が傾かないよ うに撮るには、画面上に縦と 横の線「グリッド」を出すと便 利です。グリッドの出し方は 機種によって異なります。

▶ iPhoneの場合:設定→カメラ →グリッドをオンに

AE/AF ロック 3



同じ被写体を同じ構図で何枚 か撮るときは、AE/AFロックで、 ピント(AF)や明るさ(AE)を 固定すると便利です。ピントを 合わせた後は、スマホ本体を 前後に動かさずにシャッター ボタンを押してください。

▶ iPhoneの場合 : 構図を決めて、 被写体にピントが合うように画面 をタップし続けると上部に 「AE/AFロック」の文字が出ます。 これが出た時点で、ピントが固定 され、基本②の方法で明るさを調 整すると明るさも固定されます。

5 連写 (バースト)

機種にもよりますが、撮影ボタンを軽く長押しすることで、 その間、「連写」することができます。たくさん撮った中から ベストな1枚を探すのも楽しい作業です。



2 明るさコントロール



ピントを合わせたときに、自分が思っているよりも 明るすぎたり、暗すぎたりしてしまう場合には、 明るさをコントロールしてみましょう。自分好みの 写真の明るさに調整すればOK!

▶iPhoneの場合:ピント合 わせの枠を出すと横に「太 陽」のマークが出ます。それ が出た状態で、画面を指で 上にスライドさせると明るく、 下にスライドさせると暗くな ります。

4 HDR機能





逆光や直射日光があたる景色など、明暗差が激しい シーンを撮影したいときに、明るい部分から暗い部分 まで良い加減に描写してくれるのがHDR機能です。

▶iPhoneの場合 設定→カメラ→ HDRをオンに (機種により異なる)





スマホのカメラを起動させた際、画面にこのようなマークがあれば それが「Live Photos」機能です。このマークをタップして機能をオンにした状 態で写真を撮ると、シャッターを切った前と後の1.5秒ずつを記録した「動く写 真」が撮れます。後からお気に入りの1枚を切り出すこともできるので、ころこ ろと表情が変わる子どもや動物を撮るのにおすすめです。グラスに注いだ ビールを撮れば、炭酸のシュワシュワ感が伝わる写真になります!





夜景をきれいに撮りたい!



活用したい機能 明るさコントロール、補正(彩度)

特に暗い場所での撮影時は「手ブレ」に注意。スマホを両手で持ち、脇をしめて撮ると ブレにくくなります。なお、撮影後の補正(下部参照)で、「彩度をやや高め」にすると 鮮やかな印象に。また、上の写真(右)のように手前の被写体にスマホを近づけピントを 合わせて撮ると、背景の電飾が丸くぼやけて幻想的な雰囲気が出せます。





「より青く」撮りたいときは、太陽から離れた方角の空を選んで 撮ってみてください。



活用したい機能 連写、Live Photos

素早く動くものをブレずに撮るには、十分に 「明るい場所」で撮影することが大切です。昼 間の屋外だと良いでしょう。また、基本日の 「連写」を活用しましょう。連写機能を使って撮 影することで、1秒間に何枚もの写真を撮影す ることができるので決定的な瞬間を逃しません。







活用したい機能 補正(彩度) 食べ物の近くでカメラを構え、 食べ物にしっかりとピントを合 わせましょう。可能なら、光は 自然光がベストです。また、夜 景と同様、撮影後の補正で 「彩度をやや高め」にすると、 食材が活き活きと、おいしそう に見えます。

▶iPhoneの場合: 再生画面→該当の写真をタップ→ 「編集」をタップ→各機能については下部を参照

₿明るさ タップし、明るさのバー



❹彩度 タップし、彩度のバーを 左右に指でなぞり、色味 の鮮やかさを補正する。

昼暖かみ・色合い

タップし、暖かみ・色合いのバーを左右に指 でなぞり、寒色系または暖色系に補正する。

を左右に指でなぞり、好

みの明るさに補正する。



株式会社エチカ代表 矢島直美さん

株式会社第一プログレス在職中に雑誌『カメラ日和』を企画(2004年 創刊)し好評を博す。2008年より編集長に就任し、同年に写真教室 「カメラ日和学校」を開校。2015年に独立。2016年、広く一般向けに 「たのしいカメラ学校 | をスタートさせ、カメラの使い方や撮り方の講座、 写真を使ったものづくりの講座などを日本全国で開催。 ◎近著『カメラ1年生 デジタルー眼カメラ編』 『カメラ1年生 iPhone・スマホ写真編』(共にインプレス刊)



新型コロナウイルスの感染拡大を受け、読者の皆さまにご参加い ただくことは控え、「家で体験できる企画」に変更いたしました。 ご応募いただいていた皆さまに、心よりお詫び申し上げます。 また、次号につきましても読者参加企画の募集は見送らせていた だくことが決定いたしましたので、併せてお知らせいたします。